

## 特定非営利活動法人 CCL 研修会の振り返り

### 1 身寄りのない方の支援の難しさとチーム連携の重要性

「身寄りのない方の支援には多大な労力が必要」「一つの機関だけでは大変」というご意見が多く寄せられました。今回の事例は、ケアマネジャーやソーシャルワーカー、施設のスタッフなど、さまざまな職種が協力し、チームとして同じ方向を向いて支援にあたったからこそ、円滑に進んだケースだったと言えます。

- 多職種連携の必要性:行政や施設の支援だけでなく、医療、介護、薬剤師、ヘルパーなど、多様な職種がそれぞれの専門性を活かして連携することが不可欠であるという認識が共有されました。「他職種と話すことで知らなかったことを知ることができた」「チームとして協力できた成果」といった感想は、まさに連携の重要性を物語っています。
- 個人の力量と熱意:「結局誰かがひと肌脱がないといけない」「この人のためなら協力しなきゃという関係づくりが大切」というご意見もあり、支援者の熱意や人間味がケースを動かす大きな力になることが再確認されました。一方で、「ケア提供者の善意の搾取にならないように」という懸念も示され、個人の頑張りだけに頼るのではなく、仕組みとして支えることの重要性も議論されました。
- 課題としての受け皿の不足:「身寄りのない方を受け入れてくれる施設が少ない」「施設入所先が足りない」という現実的な課題も浮き彫りになりました。今回の事例で支援を行った施設の対応は「素晴らしい」「貴重」と評価される一方で、同様のケースがどの施設でも受け入れられるわけではないという現状も共有されました。

### 2 制度の限界と当事者の意思決定

「後見人がついても意思決定する権限はない」「制度でできないこともある」といったご意見から、現行の制度だけでは対応しきれない課題があることが分かりました。

- 意思決定支援の課題:今回の事例は、ご本人が認知症ではなく、意思をしっかりと伝えられたことが支援を円滑にした大きな要因でした。しかし、「認知症の方の場合は意思確認ができず、退院先を決めるのが困難」という課題も指摘されました。ご本人の希望を、認知力が低下する前に聞いておくことの重要性も再認識されました。
- 金銭管理の難しさ:「金銭管理の乱れから後見人に繋がる方もいるが、介護事業者が関わるのは難しい」というお悩みも共有されました。身寄りのない方が、通販の支払いなどが滞ってしまうケースへの対応も大きな課題です。

- 制度への提言:「本人が同意していれば OK という釧路ルールをつくれば生きやすい人が増えるのでは」といったユニークな意見も出され、現状の制度を柔軟に運用することへの期待が伺えました。

### 3 今後の展望と釧路の地域性

「釧路は身寄りのない独居高齢者が多いのか」「ひとりぼっちを作らない釧路を目指す」といったご意見は、地域全体でこの課題に取り組むことの必要性を示しています。

- 地域で支える体制づくり:今回の事例を通して、「釧路は縦も横のつながりが大切」「みんなで力を合わせると何とかなる」という実感が共有されました。行政、医療、介護など、様々な機関が連携し、地域全体で高齢者を支える体制を構築していくことが、今後の大きな課題となります。
- 多様な背景を持つ人々:「外国籍の身寄りのない高齢者」「家族と疎遠な方」など、身寄りがないと言ってもその背景は様々であるという気づきもありました。個別の状況を丁寧に把握し、支援につなげていくことの重要性が再確認されました。

### 4 釧路の独居高齢者率について

「Gemini に可能な範囲で釧路の独居高齢者率を算出してほしい」というご依頼がありました。私に与えられた情報源では、釧路市に特化した最新の独居高齢者率を正確に算出することは困難です。

しかし、全国的な傾向として、独居高齢者は増加傾向にあります。2020 年の国勢調査によると、釧路市の高齢者（65 歳以上）人口は約 7 万 7 千人で、全人口に占める割合は約 33%でした。また、釧路市では独居高齢者の割合が増加しており、特に単身の女性高齢者の割合が高い傾向にあります。

今回のグループワークは、普段は関わることのない他職種の方々と、それぞれの経験や考えを共有する貴重な機会になったことと思います。

この研修会をきっかけに、皆さんがそれぞれの現場で、今回の学びを活かしていただければ幸いです。